

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2004-2 CYCLE)

Experimental Group	T 5 5 6	Reporter	宇野彰二
Scheduled Period and Shift	2004/6/1 - 6/8 20shifts	Main, Sub, Para	
Experimenters 宇野彰二 (KEK)、千代勝美 (名古屋大)、杉山晃 (佐賀大) 他			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>Belle—CDCのアップグレードとして、より高いビームバックグランドに対応できるよなガスチャンバーの開発を行っている。今回のビームテストでは、セルのより小さなチャンバーと現在使用しているエレクトロニクスの改良版で死感時間の短いものを組み合わせて、チャンバーの性能評価を行った。暫定的な結果として、性能の劣化は認められず、使い物になりそうである。また、FADCを使つてのデータ収集も順調に行うことができ、今後の解析結果が楽しみである。また、ドリフト速度の速いガスとして純メタンを試したが、高磁場中ではローレンツ角が大きくなり過ぎて、実質的には望むような早い速度は得られないことがわかった。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>前の実験との間に、少し時間があったので、早めに実験を開始することが出来た。その期間に加速器の故障によるダウンタイムがあったが、最終的には、1日早めに次の実験グループに引き渡すことができた。</p>			
<p>COMMENTS</p> <p>元々のビームライン電源の電流設定では、ビームが罫書きから水平方向に大きくずれていた (エリアの真中より後では6 cm)。最終バンドの電流スキャンで罫書きに合うように設定したが、以前はこんなにずれていることは無かったように思う。</p>			